

みえ福祉第三者評価結果

① 第三者評価機関名

評価認証推進機構株式会社

② 施設・事業所情報

名称：四日市市立下野中央保育園	種別：保育所	
代表者氏名： 山本 明美	定員（利用人数）： 100名	
所在地： 四日市市朝明町 498-1	ホームページ：	
TEL： 059-337-0007	shimonochuo2022.pdf (yokkaichi.lg.jp)	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 昭和 54 年 4 月 1 日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 四日市市		
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員 16名	
専門職員	保育士 13名 保育士 2名	
	子育て支援 1名 子育て支援 1名	
	調理 2名 長時間・休憩 9名	
	その他（用務等） 1名 調理 1名	
		嘱託医 2名
		事務員 1名
施設・設備 の概要	（居室数） 7室	
	（設備等）	
	子育て支援センター 給食室	
	事務室 ホール	

③理念・基本方針

【保育理念】

- ・生活やあそびなどの豊かな経験を通して友だちとのふれあいを大切にし、子ども一人ひとりの人権を尊重し合える保育をすすめる。
- ・子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉を増進する保育を目指す。

【基本方針】

- ・恵まれた自然環境のもと自然に触れたり、園外保育に出かけたりする中で、豊かな感性を育み、生命を大切にする子を育てる。
- ・生活や遊びの中で、まわりの大人や友だちとのかかわりを通して、自分の思いを表現したり気持ちをコントロールする力を身につけ、互いに思いやれる心を育てる。
- ・いろいろなことに意欲的に参加し、根気よく取り組んだり、友だちと喜びを共感できる子に育てる。
- ・家庭・地域との連携を密にし、ともに協力し合いながら子育てをすすめる。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・特別支援保育の充実に向けて、子どもたちと共に遊び、生活する中で、互いを認め合い、育ち合う保育、教育を行っている。
- ・併設型子育て支援センターとしてあそぼう会を開催している。年齢に応じた遊びを提供し親子で楽しんだり、親同士の交流の場として位置づいている。子育て相談、保健師相談、栄養士相談等も行っている。
- ・平成27年度より19時までの延長保育を実施している。保護者の就労形態に合わせ利用してもらっている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 3年10月28日（契約日） ～ 平成 4年3月18日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	0回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

・四日市市立下野中央保育園は、子育て支援センターを併設しまた地域の保育ニーズに鑑み午前7時から午後7時までの延長保育を実施している。四日市市の「こどもと子育てにやさしいまち」に向けた環境整備の一環として、「子育てするなら四日市」のスローガンのもと、併設の子育て支援センターでは、週三回のあそぼう会で地域の未就園児とその保護者に遊びや交流の場を提供したり子育て相談を実施したりして地域の子育てを支援している。

・子どもの主体性を大切にする保育が実践されている。

のびのびと自由に子どもの興味関心に合わせて子どもがやりたいことを自分で考えて決める環境を整え、職員は見守りながら声がけしサポートしている。障がいのある子どもの特性を理解し、その行動を受け止めその行動の中で保育士ができる支援を考えて接している。iPadを使い、子どもの動きや視点を捉えた勉強会や研修会を通じて子どもの理解に努めながら、子どもにも保護者にも「受け入れ」の姿勢で話を聞いている。また、恵まれた自然環境を生かし、園外保育に出かけることで子どもたちの興味関心を引き出しており、「目指す子どもの姿」にある「心身ともに健やかにのびのびと育つこども」が意識された保育が実践されている。

・コロナ禍を踏まえた中で行事も工夫し、丁寧な保育を心掛けている。

食事の前に机は一台につき一枚の除菌シートを使い、椅子などはその都度拭いて対応している。子どもの成長を見たいという保護者の願いに寄り添い、様々な感染対策の工夫をしながら運動会を実施したり、年齢で日や時間を変えて、保護者参観や懇談会を開いたりしている。

・地域との交流を大切にし、地域の人にも見守られていることを実感する機会を大切にしている。

高齢者施設デイサービスへの定期的な慰問や地域敬老会への参加)、運動会や夏祭りへの地域の未就園児の招待、地域の幼稚園や保育園との交流や小学校での交流、中学生の職業体験の受け入れや、絵本の読聞かせ、人形劇や地域のミニ SL 乗車等のボランティア等の幅広い世代間の人々や同年代の子どもとの交流を通じて、子どもの世界や社会体験の場を広げ、また大人に見守られて育つことも実感できる場を作っている。

・自己肯定感を養う工夫

誕生日には、名札に誕生日カードを付けて貰い、クラスの友だちや他のクラスの先生や保護者からもお祝いの言葉をかけて貰うことで、主体として受け止められていることを実感し周りに認められているという自己肯定感が育つツールとして工夫している。

◇改善を求められる点

・すべての職員や保護者等に理念や方針の共通理解を促すための環境整備が望まれる。

保育園の理念や方針は保育の立ち返る礎となるもので、この保育園は、自分たちの子どもをどんな子供に育てるどんな園であるのかという理念や、その実現のためにどういう保育をしていくのかという園の姿勢に対して、保護者に関心を持って貰い理解をして貰えるよう市と連携しつつ紙媒体や電子媒体を整備し共通理解に繋がられるよう期待する。

・園では、市の計画やビジョンを受けて園としてのビジョンや「全体的な計画」を策定し、「重点的に取り組む保育の柱」に挙げているが、市と連携しつつ園独自の課題や特徴、地域性を活かした分かり易い中長期計画の作成も望まれる。

・園長は、職員の役割分担と相互協力体制を確立し、働き方改革による業務の効率化を図っているが、自らの責任や役割についての具体的な園長の取組や運営方針等を明文化し掲示や園内広報誌等へ掲載により表明することで職員の理解や信頼関係を築き、更なるリーダーシップ発揮の効果に向けた取組となることが期待される。

・保護者の要請に対して迅速な対応やその集約や対応、公表の手順の整備が望まれる。

保護者からの意見や相談、意向等の情報の把握は、アンケートや日頃の話し易い雰囲気での情報収集で得られているが、得られた情報に対しての集約方法や対応や反映に対して保護者からの不満の声がある。苦情や相談案件の発生時には、些細なことでも内容を記録に残し、解決策や解決に向けての中間報告や対応結果などを文書化した記録物を個人情報に配慮しながらではあるが保護者に公表する取組やそのプロセスの確立にも期待が寄せられる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

子どもの主体性を大切にする保育、自己肯定感を育む保育について、子どもの興味関心に配慮し保育環境を整えながら今後も丁寧に取り組んでいくことに努めていきたい。子育て支援センターにおいては、多様化する地域の保育ニーズに対応し、地域の福祉拠点として今後も取り組んでいきたい。

今回の受審により明確になった課題については、保育園の理念や保育方針について指導者を中心に話し合い方向性を考え、来年度、職員や保護者にわかりやすく周知できる

よう取り組んでいる。園長として保育の質の向上に向けての取り組みや効率的な園運営を実現するためにリーダーシップを発揮できるよう努めていきたい。また、保護者からの相談や意見等の受付口も分かりやすいよう掲示し、記録すること等考えている。今後もさらに職員や保護者、地域との連携を密にし、子どもの最善の利益を追求し、保護者や地域の皆様に安心、信頼される園を目指して努力していきたい。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。